

お天気マツリⅡ観測今昔Ⅱ

を楽しもう

はじめに

甲府地方気象台では、今年で気象観測を始めてから百二十年となりました。これを記念して、お天気マツリⅡ観測今昔Ⅱを開催します。百年以上前の希少な原簿や資料を見たり、講演会を聴いたりゲームをしながら知的好奇心を満たしたり、防災情報の活用などを考えていただける機会となりますよう、期待しております。どちらかと言うと、大人向けのイベントですが、お子様も楽しめます。

災害と観測原簿の展示

130年間続けてきた観測。現在では全てデジタル化されパソコン上で閲覧できますが、かつては紙に記録しておりました。この資料は、数年後には国立図書館に移管され手に届きにくい状況となります。過去に発生した災害時の解説資料と共にその時の観測原簿を公開します。また、山梨で重大な事件があった時の天気はどうだったでしょうか。さらに、通常の定時観測とは別に過去には様々な特別な観測を行っていました。ぜひ、この機会に見てみましょう。

昔の測器展示・見学案内

「見学案内」で案内説明する、現在利用している



観測測器と、2階防災連絡室に陳列されている以前利用していた観測測器を比べてみましょう。機械的に行ってきた気象観測から電気式に移り替わり、現代も休みなく継続しています。気象観測技術の進歩を感じてみましょう。

楽しい実験とゲーム

ペットボトルをくるくるまわして竜巻を作ってみましょう。大気圧チェンバーの中に入って大気の圧力を感じてみましょう。大雨・雷・竜巻から逃げられるか、ゲームをチャレンジしてみましょう。

講演会

甲府地方気象台 鈴木台長による「観測今昔の話」鈴木台長は、これまで気象庁本庁にて観測機器の整備・運用や、GPSを利用した水蒸気量の解析など特殊な観測に関する業務に携わってきました。この経験から昔の気象観測と現代の気象観測の違いなど大変興味深い話しをわかりやすく説明します。



鈴木台長



鈴木台長

甲府地方気象台 吉見防災指導係長による「南極・富士山頂観測体験記」吉見防災指導係長は、すでに定年を迎え再任用で甲府地方気象台で勤務しています。四十年以上にわたり気象業務に携わっているのですが、気象庁職員でもあまり経験がないような南極や富士山頂、南鳥島など、特殊な地域での勤務を経験されています。アメダス点検出張中で同乗中に昔話をされるのですが、その話は大変興味深く面白いのです。2度と聞けない内容ですのでぜひ、この機会にご参加しましょう。

防災ゲーム その時どうする？

講演会の間に実施します。3択クイズとなっており、シチュエーションに応じてその危機をどう乗り越えるか考え、発表するゲームです。正しい答えがあるとは限りません。



例えば、「あなたは高校生で下校中です。自転車で開国橋の上を運転していますが、正面から竜巻が迫ってきました。どうしますか？」

1. そのまま進む 2. 橋の下へ飛び降りる 3. アナザーアンサー
「3. アナザーアンサー」は、自分で考えた答えを発表します。
ぜひ、ご参加いただき、楽しみながら防災を考えましょう。全部で3問

津波の展示 もしあの時ここが浜辺だったら

平成二十三年三月十一日 東北地方太平洋沖地震の津波の高さはどのくらいだったのか。甲府では津波が押し寄せることはありませんが、もしもここが浜辺だったら…